

2021-11-3

ふじさわ・九条の会ニュース

No.66



発行人 ふじさわ・九条の会 事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP (ホームページ) <http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>



検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。

タウンニュース意見広告の顛末

吉塚晴夫

自民党星野議員の意見広告

地域の情報紙タウンニュース藤沢版8月13日号に、神奈川12区の自民党衆議院議員星野つよし氏の「新型コロナの先も見据えて」と題した意見広告が掲載されました。

時あたかも新型コロナの蔓延によって、医療は崩壊状態にあり「自宅療養」という名の「自宅放置」に置かれた人々が次々に死んでいった時期でした。そういうときに星野議員は「憲法を変えて新型コロナなど感染症を緊急事態条項の対象にしよう」と訴えたのです。星野氏は「自民党の改憲4項目の中の、緊急事態条項の創設は必要だとの認識は高まっている」として、「改憲案の対象を大規模災害だけでなく、感染症の蔓延も対象として憲法を変えよう」と主張しました。

コロナの際限ない広がりの中で、全国民が苦しんでいる時に、憲法を改定すればコロナを抑えられると言わんばかりの主張は、加藤前官房長官の「コロナ禍は憲法改定の絶好のチャンスだ」という発言と平仄^{ひょうそく}を合わせたものです。こういうのをコロナ禍で生じた、ドサクサに紛れた火事場泥棒的改憲論と言うのです。

私たちの反論

長年政府や自治体に憲法を守らせる活動を続けてきた、私たちふじさわ・九条の会は、この主張を看過してはならないとして、タウンニュース9月17日号に「新型コロナの『本当の』先を見据えて コロナ禍に乗じた緊急事態条項の提案にNO!」と題した以下のような反論を掲載しました。

コロナ感染の拡大を抑えられず、医療崩壊は当時既に現実でした。この最悪の事態は安倍、菅政権の失政が引き起こしたものであって、憲法に緊急事態条項がないためではありません。感染拡大

を抑えられないのは、PCR検査を大規模に行って無症状の感染者を見つけ出し、適切に隔離保護をしないで過ごしてきたためです。

医療が崩壊しているのは、歴代の自民党政権が病院を統廃合して病床を減らし、地域医療を痛めつけてきた結果です。とりわけ感染症病床を非効率、無駄なベッドだとして削減してきたためです。また保健所が疲弊して機能不全に陥っているのは、公衆衛生を軽んじて、その個所数を大幅に減らしてきたためであり、「公衆衛生の向上及び増進」(憲法25条)をないがしろにしてきたからです。その結果コロナに限らず他の病気や怪我をしても医療にかかれぬ、入院できないという悲惨な事態になってしまいました。

更にコロナを抑えるすべもないのにオリンピック、パラリンピックを強行して海外から多数を出国させ、コロナを更に蔓延させるという、政府の支離滅裂さを、全国に曝け出しました。コロナ禍に乗じて憲法改悪を持ち出すのではなく、コロナ禍に苦しむ市民県民の暮らし支援、医療介護障害福祉分野の従事者応援を、それこそ「本当の先を見据えて」いま実行すべきです。早急に国会を開いて、国民のいのちを救う政策を議論するべきだ、という論旨でした。

さてこの掲載料は245,300円でした。会員各位のご協力に感謝します。

衆院選の結果は…

このニュースが届く頃には、衆院選の結果が明らかになっています。星野氏の言うような、国会も開かず火事場泥棒的改憲を押し通す政権が続くのか、それとも日本国憲法を守り生かし、何があっても心配することのない、人に優しい政治が実現するのか、一体どうなっているのでしょうか。

サンゴの悲鳴

ダイバーとして約40年国内外様々な海で潜ってきました。

最初の20年間は、どこに行っても生物多様性に富んだ素晴らしい海を見る事が出来ました。

しかし後半の20年間の海洋環境は、地球規模で劇的な変容をみせて来ました。

地球全体が抱える深刻な気候変動により日本こそ深刻な変化を生じており、私はそれを海という現場から見てきましたが、とりわけ沖縄の海・サンゴに関しての変化は激烈です。写真1は、10年以上前に石垣島～西表島海域で撮影したものです。造礁サンゴが見事で健康な状態の南の海は多種多様な生物の棲む「命湧く海」そのものです。

写真2は、今年4月に撮影した同じ海域での水中風景です。

水温の上昇や気候の変化等でサンゴは死滅、瓦礫化した姿が多く見られます。

残念な事に最近の調査によると沖縄全体で少なく



上：写真1(10年以上前) 下：写真2(2021年4月)

ても8割以上はこのような状態になっているといわれています。(※1)

気候の変化は、ヒト以外の生物にも影響を与え、あらゆる生物を絶滅にまで追い込んでいるという現実があるのです。

もう一つの変化

この様に長きにわたり潜り続けてきた石垣島の海はすっかり変わってしまいました。

それは海の中だけではなく陸の変容も強烈で、何より石垣港にずらっと並ぶ日本最大級の巡視船の姿は異様です。今や石垣海上保安部は巡視船17隻(うち小型艇3艇を含む)を配置し文字通り日本最大級の配備となっており、まるで軍港の様です。(※2) 尖閣警備に伴う「要塞化」は大きく石垣の風景を変えてしまいました。

そして、「辺野古の海」今年も11月に訪れますが「サンゴの移植」によって基地建設からサンゴを守るなどという事がいかに虚言であるか、そして気候変動により失われる海の生物多様性が、基地建設などの戦争への準備段階での破壊的な行為によって、「さらにとどめを刺す」ように破壊されていく。そのような姿を見せられるのは覚悟のうえです。石垣や辺野古の海にいと、そこには沖縄が見えるのではなく日本が見える、「これが私達の国の姿なのだ」と思い知らされるのです。これにはあきらめることなく声を上げ続けるしかありません!

気候危機に立ち向かう人達と核廃絶平和運動に長く関わってきた人達とで「気候危機と平和運動は同じ地球を救うための行動である」という共通の認識を持つべき時なのです。

今こそ連帯を深め共に声を上げる時だと感じています。

(※1)環境省石垣島自然保護管事務所の調査によると2020年は石垣島・西表島海域でのサンゴの被度(サンゴが海底を覆っている割合)は11.5%であると発表、私自身も今年2月・4月の2度潜水調査を行った。(※2)石垣海上保安部のHPより

武本匡弘さんzoom講演会 11月21日13:30~15:30

**「気候変動・気候危機・気候正義とわたしたち
~海から見る地球」**

申込：URLorQRコード 11月14日締切

<https://forms.gle/rBz8zkVnCDFg1VG66>

主催：神奈川県歴史教育者協議会



「2887」の映画は藤沢で見たばかりなのにどうしてまた江ノ電沿線九条の会は片瀬でやることになったのか。それにはいくつかの理由があった。1つは、河野監督の話の中に「撮りためた映像がこの3倍くらいあるので、それを編集していくとこの映画は進化していきます」とあったことから、進化型を観てみたいという好奇心。2つ目は藤沢だけで観るのはもったいない！もっと広く観てもらいたい、という気持ち。3つ目は九条の会も発足以来15年を経て、地域の方々もかなり高齢化して藤沢に出ていくのも大変という方がおられたので、地元なら観てもらえるのではないかと思ったこと。

そんなことを考えて、まずは隣町の『腰越憲法九条の会』にお誘いをしたところ、「実行委員会を

つくったので一緒にやらせてほしい」との返事もらった。すぐに片瀬公民館のホールを予約して準備にとりかかった。腰越九条の会とは、いままでも何回か共催の企画をしたことがあった。でもその後、『大船九条の会』の世話人の方が河野監督と知り合いなので一緒にやらせてほしいとの依頼があって、3つの会の共催となった。準備は、コロナ禍での集客数の縮小、限定販売にすることが一番大変だった。江ノ電九条の会は既に世話人全員が観ているので、もしオーバーしたら外に出ようとも考えていた。案の定最大75人と決めてあったのに、81枚も売ってしまったという連絡が入り、杞憂が現実となり不安が大きくなった。

しかし、なんと当日は大荒れのお天気で藤沢には大雨警報が出てしまった。このまま雨がひどくなったら公民館は避難所になってしまう。早朝に公民館長に電話を入れて確かめたところ、「まだ大丈夫だが、指示が出たら即刻退去してもらいたい」との返事だった。やれるところまでやろう！の決意で会場準備に入った。受付を始めると、大雨を警戒してのドタキャンの連絡が続々と入った。お蔭で、椅子の配列は十分にソーシャルディスタンスがとれる並べ方になった。ホッとした。上映開始直前に突然現れた男性が「ネットで見たんですけど」と言う。受付はびっくり。限定販売なので対面で売ることになっていたのに何故ネットにのってしまったのか。(じつは今でも発信源は解らない)でも、たくさんのキャンセルがあったので、特別に入場を許可した。その男性「僕、安倍が大嫌いだからテレビに出てきたら消すんです。だから最後まで観れるかどうかわかりませ

江ノ電沿線・腰越・大船 憲法九条の会 合同映画会

日時 2021年 **9月18日** (土) 午前10時～ (9時半開場)

会場 片瀬公民館 2階 ホール
(湘南モノレール「湘南江の島駅」、江ノ電「湘南江の島駅」から徒歩約5分)

映画 2887

監督・脚本・撮影：河野 俊司

この映画は、安倍政権が続いた2887日を検証する作品です。



歴代最長を記録した安倍元首相。これで歴史に名が残ることでしょう。けれど、「ワソ」と「でまかせ」と「はったり」で塗り固めた「史上最悪政権」というのが真相ではないでしょうか。この、「ワソ」とつじつまを合わせるように社会は動いていきました。政治家も官僚もメディアさえも。そして、影響は今も続いています。

映画は十数人の証言から安倍政権2887日の足跡を丹念に検証。出演は、安倍晋三、伊藤 真、小出裕輝、宮藤貴男、澤地久枝、山城博治、浜 矩子、元山仁太郎、松元ヒロなど。登場する全ての人に耳を傾けたくなる興味深い話が満載。特に、テレビでは会えないお笑い芸人 松元ヒロの生き方と語りには引き込まれてしまう。

ん。」と言いながら、ドアのそばの空席に座った。河野監督には片瀬で上映会をやることはお知らせしていなかったのに突然会場に来て下さって、サプライズ！映画誕生の秘話を語ってくださった。参加者の皆さんはとても納得しておられた。「よかったよ！」と声を掛けて帰られた方、最後まで見続けられた方、「前回より分かり易く編集されていた」と映画が進化したことを評価した方、車を回して送迎をして差し上げて観た方も「よかった」の感想を残して、傘をささずに帰路につかれた。

当初の3つの思いは達成出来たのでそれなりの満足感があった。しかし、コロナ禍での開催にはものすごく気を遣ったのに予定をオーバーして券が売れてしまったことや、3つの会の考え方のすり合わせが今一つできなかったことなど、反省すべきことはいろいろ残った。小さな九条の会ではやりきれないことでも共催すればやれることは広がるが、共催の難しさも教えられた。たまたま鎌倉市には小さなホールがなく、借用料も高すぎて借りられないという事情もわかった。また、鎌倉にある地域九条の会と『鎌倉九条の会』とは全く連携がなく情報も流れて来ないという鎌倉ならではの事情も分かった。最大の反省は、ネットに情報が流れることを誰も想定していなかったこと。今の時代にすっかり遅れていたことを反省することになった。

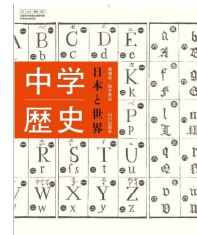
『江ノ電沿線九条の会』は小さいながらも学習会だけはコロナ禍でも休まず続けていて、今月で60回目になる。小さくても出来ることはこれからもしっかりと続けていきたい。(図はチラシの一部)

教科書の記述への歴史事実を否定する政治介入

持田 早苗

政府答弁受け、5社が「従軍慰安婦」「強制連行」記述を変更

政府は4月27日、日本維新の会議員から出された質問主意書に対して、「答弁書」を閣議決定。その後、文科省は教科書会社に対して説明会を開きました。中学社会、高校地理歴史、公民科の教科書を発行する5社から訂正申請があり、9月8日に承認する形をとりました。



<政府の答弁書> 「従軍慰安婦」「強制連行」という用語について

- 当時使われていなかった「従軍慰安婦」という用語をもちいることは、「誤解」を招く恐れがある。
- 「従軍慰安婦」または「いわゆる従軍慰安婦」ではなく、単に「慰安婦」という用語を用いることが適切である。
- 朝鮮半島から日本への戦時労働は「募集」、「官斡旋」などさまざまな経緯があり、「強制連行」または「連行」ではなく、「徴用」を用いることが適切である。

〔2014年教科書検定基準「改正」で「政府見解がある場合はそれに基づいた記述」をすることが定められました。しかし政府が「継承」しているとした1993年の河野洋平官房長官談話は「いわゆる従軍慰安婦」という用語を使っています。〕

◇訂正の例

| 出版者 教科書 | 訂正前 | 訂正後 |
|----------------------|---|--------------------------------------|
| 山川出版 「中学歴史 日本と世界」 | 『慰安施設』には、朝鮮・中国・フィリピンなどから女性が集められた。(いわゆる従軍慰安婦)。 | 『慰安施設』には、日本・朝鮮・中国・フィリピンなどから女性が集められた。 |
| 東京書籍 「高校 新選日本史B」 | 「強制連行された労働者」 | 「強制的に動員された労働者」 |

抗議と撤回へ大きな世論を

この教科書への政治介入に抗議する世論は高まっています。10月18日「こどもと教科書全国ネット21」は、192団体の賛同を得て、「閣議決定と訂正申請承認の撤回を求める」要望書を文科省に出しました。(「みんなの教育・ふじさわネット」「ふじさわ・九条の会」も賛同)

8月下旬には、自民党山田宏参議院議員の事務所は、大学への合格実績で知られる駿台予備校のテキストの、「竹島問題」や「南京大虐殺」の記述について、「記述は政府見解と異なる」と、駿台側に問い合わせをしました。駿台の経営者側がその直後に一部の削除を決めました。講師陣は「削除を認めてしまえば、どんどんやられてしまう。」「駿台での教育は、大学入学後により批判的に、より深くものごとを追及する主体的な学習に転換を促すもの」と、その対応に疑義を唱えました。そして削除を白紙に戻すなどの要望書を経営陣に出し、とうとう10月上旬に、経営側と講師側が「削除を白紙に戻す」という合意に達しました。

戦争の事実を歪曲しようと政治が、教科書に教育に、またもや圧力をかけてきています。教科書の記述はたえずねらわれています。「教育を受ける権利」、「学ぶ権利」「教育の自由」「平和に生きる権利」がうばわれないように、教育に政治介入をさせない世論を大きくしていきたいと思えます。

9条かながわ大集会2021 in横浜
今こそ憲法でいのちと暮らしを守ろう!
 11月29日(月) 18:50~21:00
 関内ホール 大ホール
 講師 斎藤美奈子さん(文芸評論家)
 岡田尚さん(弁護士、九条かながわの会事務局代表)

上映会 **ヒロシマへの誓い**
サーロー節子とともに
 11月20日(土)
 14:00~15:30(要予約)
 藤沢市民会館第1展示ホール

震災復興支援コンサート
&トークinふじさわ
 11月23日(祝・火)13:30~15:30
 藤沢市湘南台市民シアター

9の日行動 11月9日(火)13:30~
 サンパール広場(雨天:南口1階)

今なら間に合う!気候危機 11月28日(日)14:00~要予約
 ~国立環境研究所 江守正多さんと考える~
 藤沢市民会館第2展示ホール